

取扱説明書及び部品表

Takakita

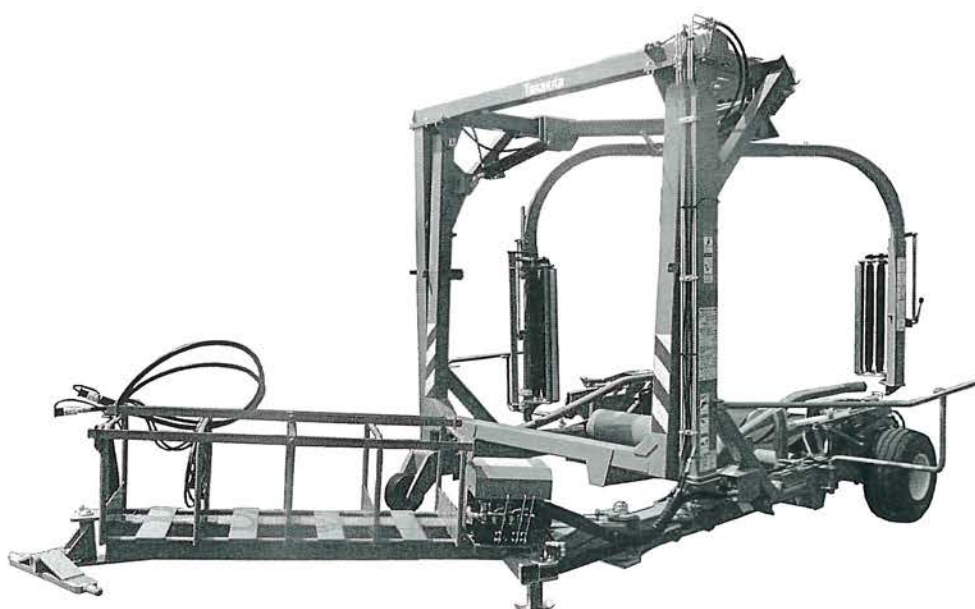
フルオートラップマシーン

WM1630AX

WM1630AXW

WM1630AXT

WM1630AXWT



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。

本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットから右記QRコードを読み込んで
アクセスすることができます。



(P1～P20)



(P21～)

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、**フルオートラップマシーン**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。

ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この『取扱説明書及び部品表』を製品に添付して、お渡してください。
- この取扱説明書及び部品表を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または弊社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

- | | |
|---|--|
|  危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
|  警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
|  注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	10
各部の名称とはたらき	11
トラクタへの装着	13
1. ロワーリンクへの装着のしかた	13
2. 油圧ホースの接続	13
3. コントロールボックスの接続	14
運転に必要な装置の取扱い	15
1. コントロールバルブの取扱い	15
2. コントロールボックスの取扱い	15
3. ストレッチアームの速度調整	15
4. フィルムサイズ変更時の組替え	16
5. リフトローラ停止位置の調整	17
6. テーブル前ローラのバネ調整	17
7. フィルム切断具合の調整	17
8. フィルム格納のしかた	18
9. 安全ガードの取扱い	18
10. グリップカッター・ ナイフ保護カバーの取外し	19
11. フィルムをセットする	19
12. タイヤの取付け位置	20
作業方法	21
1. 作業手順と要点	21
2. 移動から作業への切替え	22
3. 巻数設定	22
4. 累積ベール表示	24
5. 自動（半自動）作業	25
6. 手動作業	31
7. 作業から移動への切替え	36
8. フィルムの取外し	36
作業前の点検について	37
簡単な手入れと処置	38
1. シェアボルトの交換	38
2. ヒューズの交換	38
3. フィルムの取扱いについて	38
4. タイヤの点検・修理	39
5. 車輪止め	39
6. 各部への注油・グリスアップ	40
7. 長期格納時の手入れ	41
使用上のご注意	42
不調診断	44
自動運転時のエラーチェック	46
付表	48
1. 主要諸元	48
2. 主な消耗部品	48
3. 配線図	49
4. 油圧回路図	50

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

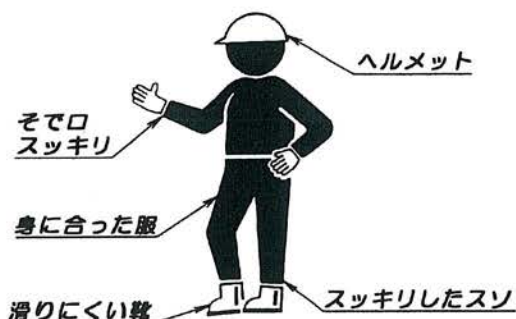
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。
- 16歳未満の人。



(2) 使用する人の服装

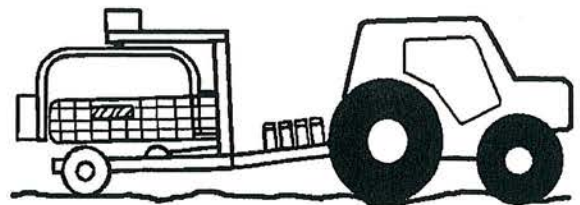
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

- 適応トラクタ馬力：30～88kW
(40～120PS)
- ロワーリンク規格：カテゴリーⅡ
- 電源用バッテリー：DC12V
- 油圧取り出し：複動1系統
20～40リットル/分



(4) 装着時の前後のバランス確認

軽量のトラクタに装着して作業を行う場合には、ヒッチ荷重を確認してください。

トラクタ質量にヒッチ荷重を加えた値の20%以上の荷重が、前輪に作用していることが必要です。

もし、不足する時はトラクタ指定のフロントウェイトを取付けて、20%以上確保するか、できなければ装着しないでください。



⚠ 安全に作業するために

(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。

また、改造をしないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

ロールベアラをラッピングすることを目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には本機と無線機の『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

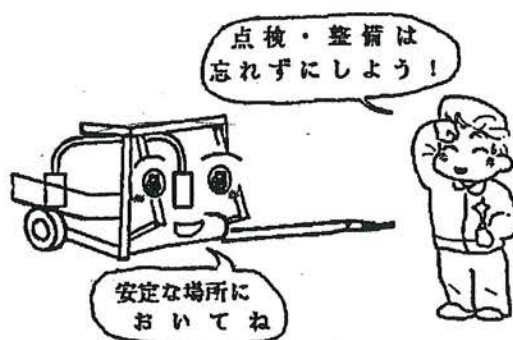


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキ、車止めをしてから行ってください。



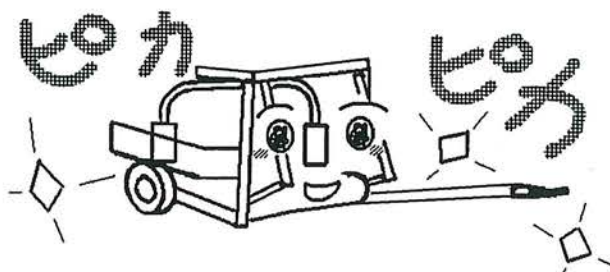
(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも、機械を常にきれいにしてください。

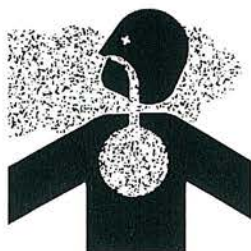


⚠ 安全に作業するために

(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

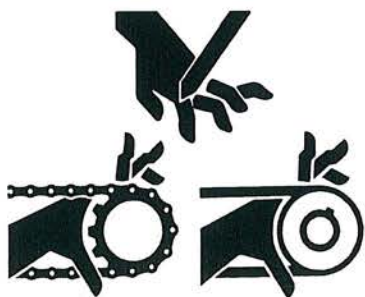
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(7) カバー類を必ず取付ける

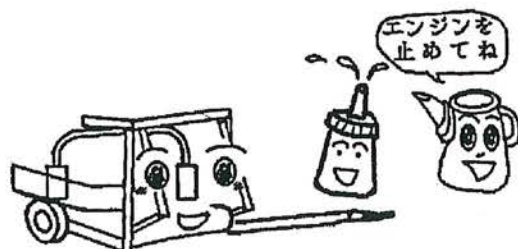
カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



(9) 非常停止スイッチの動作確認を

配線コードの外れなどがいないかを点検し、非常停止スイッチを押して本機の

動作が停止するかを作業前に必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(10) コントロールボックスの電源脱・着は

トラクタのバッテリーより電源を取り出します。

その取付け方法は、(+) 側から行ってください。

外す時は、(-) 側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。(詳細は本文の『コントロールボックス』の取付けを参照してください。)



(11) タイヤの点検・修理をするときは

①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。

②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。



⚠ 安全に作業するために

(12) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に車輪止めをして保管してください。コントロールボックスと無線機は、トラクタより取り外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

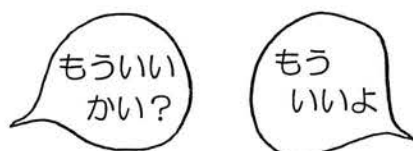
(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときは

変速レバー及び、外部油圧切替えレバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

安全確認



(4) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(5) 傾斜地で作業するときは

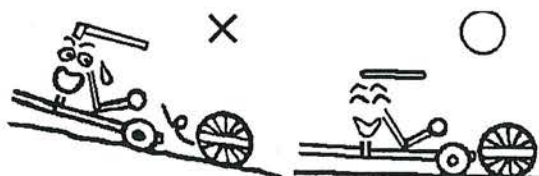
次のことを必ず守ってください。

①斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず等高線に直角方向に走行してください。

②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。

③傾斜地でのバール放出は、谷側にバールが転がって危険です。必ず、平坦地まで移動して、安全な場所で放出してください。



⚠ 安全に作業するために

- (6) 回転中のストレッチアームには触れない

回転しているストレッチアームに触れると重傷を負うことがあります。回転中は手や足で絶対に触れないようにしてください。



- (7) 移動及び作業の旋回の場合は

トラクタに本機を装着しての移動やほ場での旋回は、必ず3点リンケージでリフトアップしてから行ってください。急旋回は危険ですので行わないでください。

- (8) 移動及び作業の旋回の場合は

トラクタに本機を装着して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。

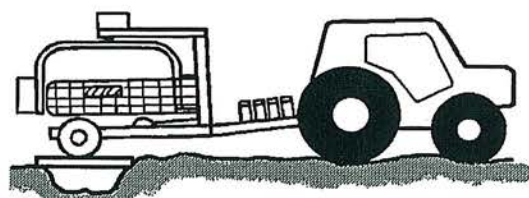


- (9) ストレッチフィルム、シェアボルトの交換や巻付き草などを取り除くときはエンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



- (10) 溝や段差を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

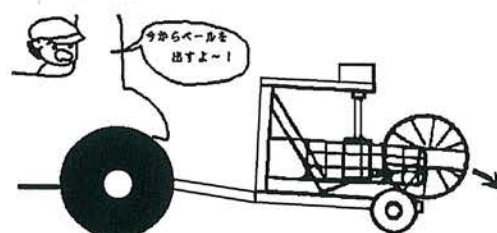


- (13) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に停止し、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。

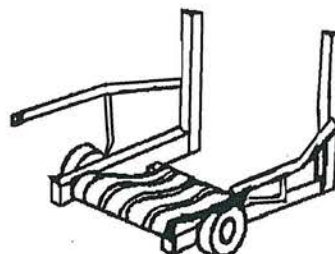


- (12) ラップベールを放出するときは

ラップベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し放出距離を考慮して放出してください。



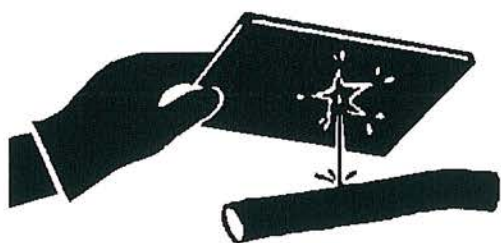
- (13) ストレッチアームを回すときはストレッチガードを必ず左右とも、確実に固定してください。



⚠ 安全に作業するために

(14) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。
- ④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



- ⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



(15) スタンドを移動位置にする

移動するときは必ずスタンドを上げて走行してください。

4. 道路走行・輸送するときは

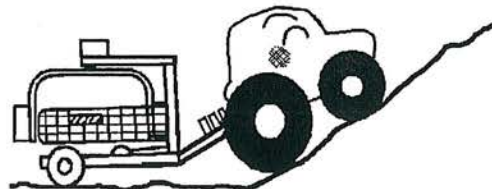
(1) トラクタに装着しての公道走行禁止

トラクタに本機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。トラクタに装着しての走行はしないでください。



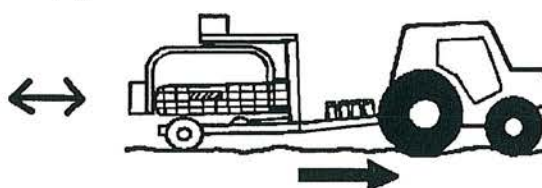
(2) けん引かんを上げる

特にほ場から出入りする場合には、本機損傷の恐れがありますので、ローリンクを上げてください。



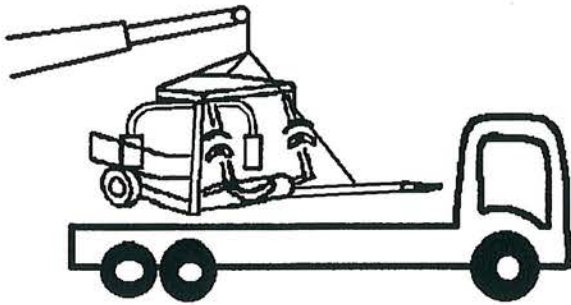
(3) ガードをたたんでください

ほ場間の移動走行をする場合は、本機損傷を防止するために、ストレッチアームを進行方向に対して前後の位置にしてガードをたたんで移動してください。



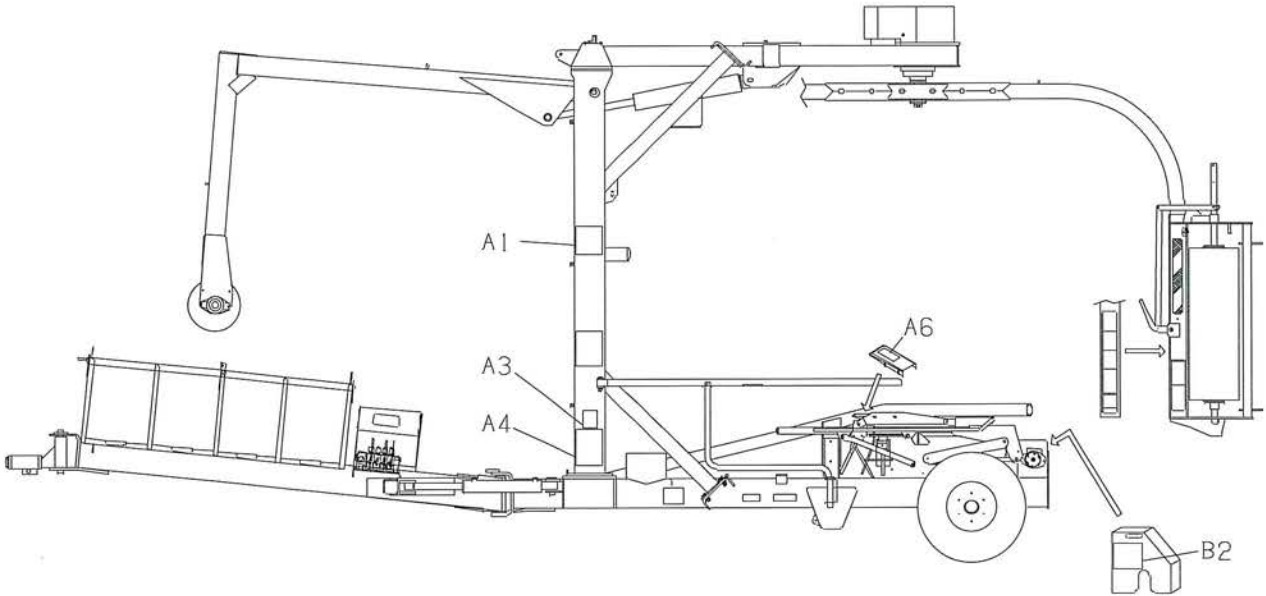
⚠ 安全に作業するために

- (4) トラックなどへの積込み・積降ろしは平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

5. 警告ラベルの貼付け位置



A1) 部品コード 001306200420

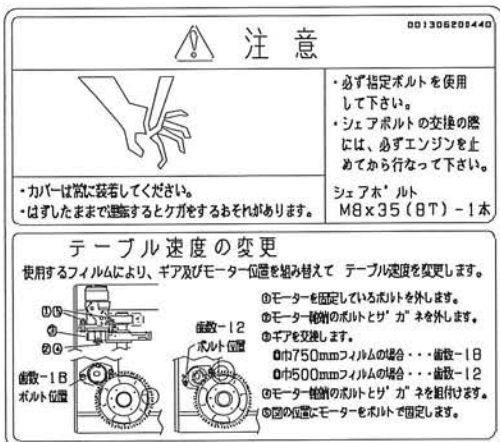
A3) 部品コード

001306000190

A4) 部品コード 001306200430



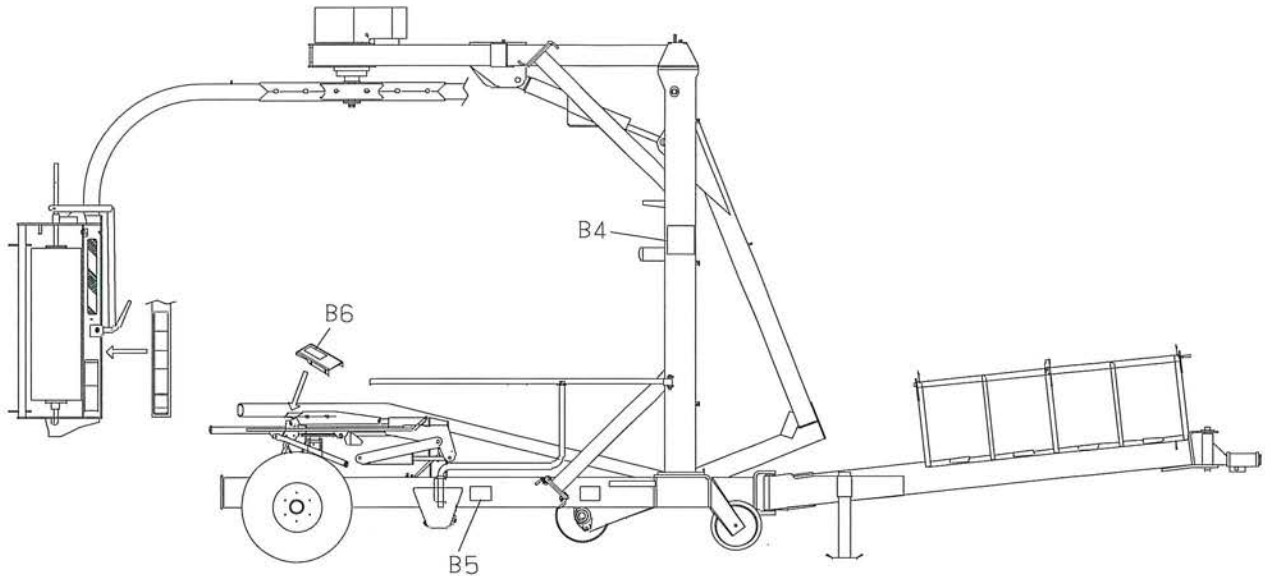
B2) 部品コード 001306200440



A6) 部品コード 001306002151



⚠ 安全に作業するために



B4) 部品コード 001306200420

B5) 部品コード

001206000750

B6) 部品コード 001306002151



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、ロールベールのラッピングにご使用ください。

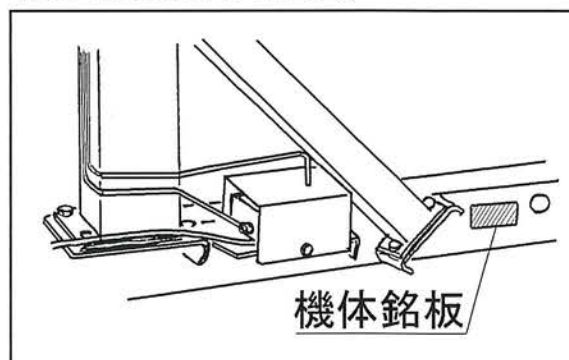
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

(機体銘板貼付け位置図)



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

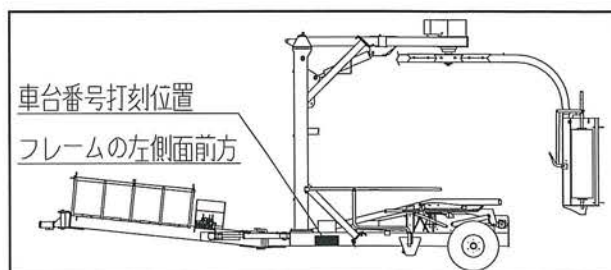
【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	フルオートラップマシーン		
型 式	WM1630AX(T) / WM1630AXW(T)		
機 体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

車台番号について

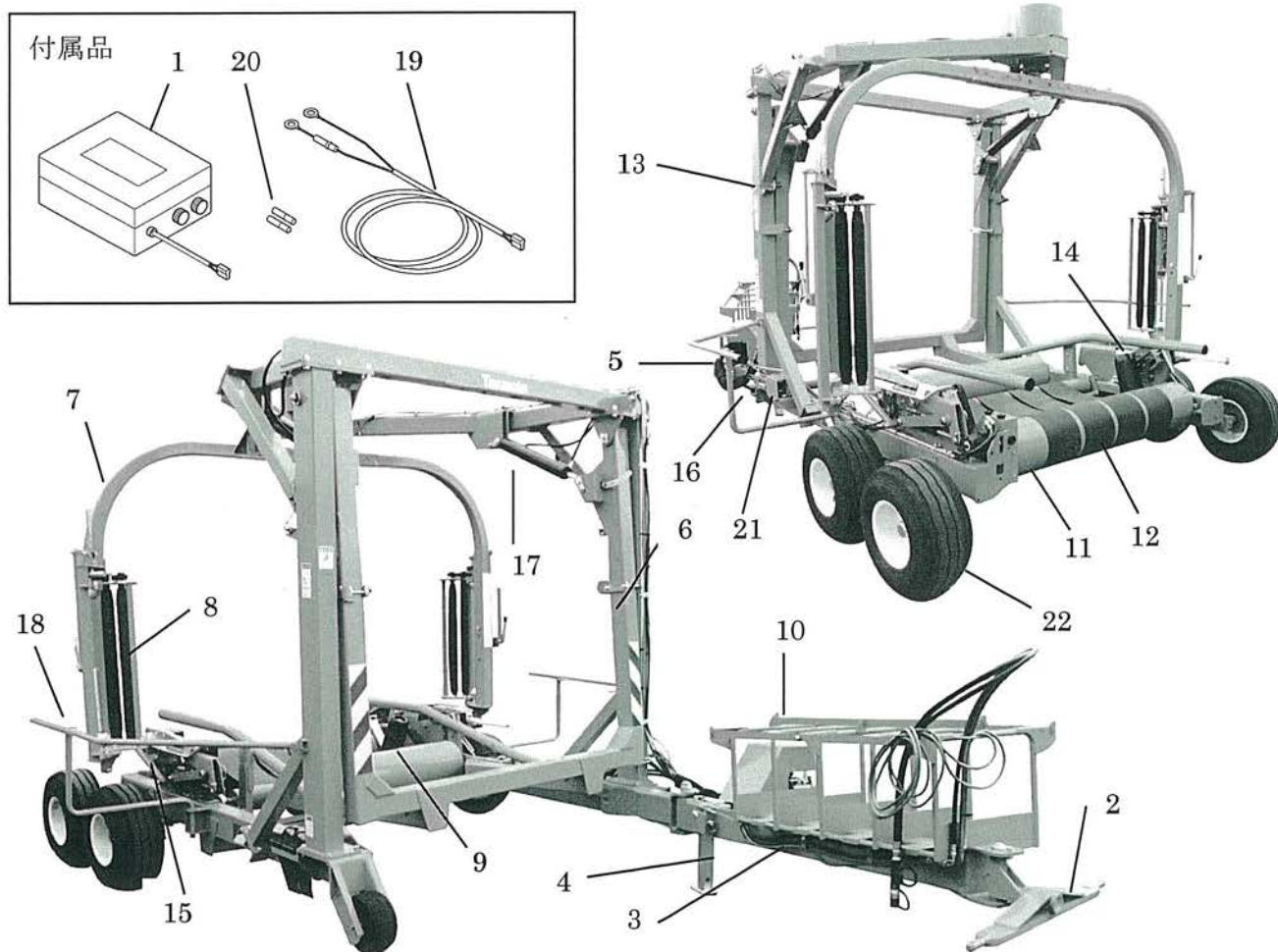
本製品には、上記機体 No.と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。

打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。



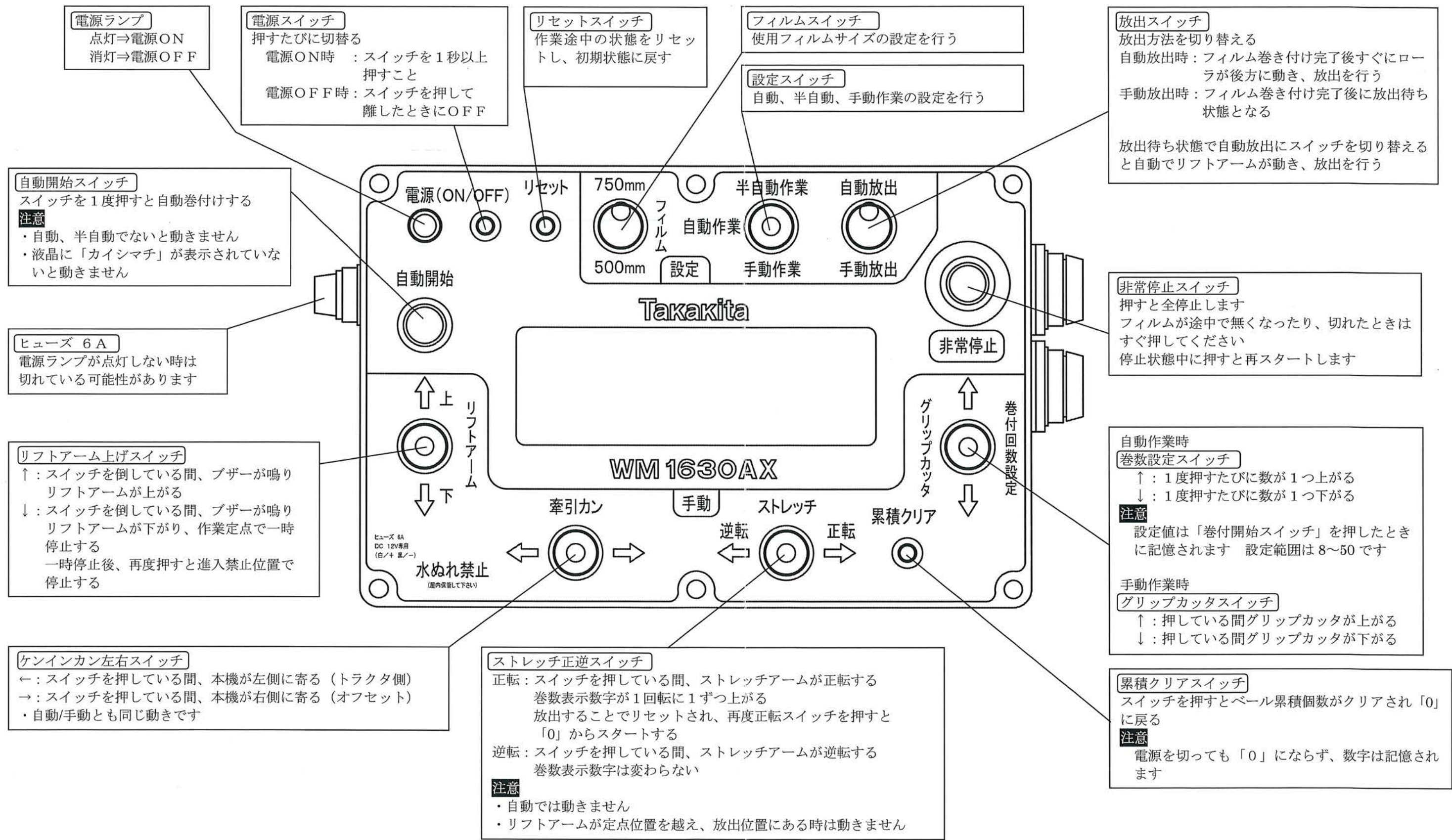
型式	WM1630AX(T)	WM1630AXW(T)
車台番号	WM1630-****	WM1630W-****

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	コントロールボックス	本機の操作を手元で行う（詳細別紙）
2	けん引ヒッチ	トラクタのローワーリンクに連結する
3	けん引かん	本機のオフセット位置を変える
4	スタンド	トラクタとの脱着時、保管時に使用する
5	バルブ操作レバー	本機側で、ストレッチアームなどを回転するレバー
6	リフトアーム	ベールを、テーブルローラに乗せる・及び放出する
7	ストレッチアーム	回転して、フィルムをベールに巻付ける
8	ストレッチブラケット	フィルムをセットする、及びフィルムを引き伸ばす
9	リフトローラ	ベール回転時の補助ローラ
10	フィルムボックス	予備のフィルムを入れておくボックス
11	テーブルローラ	ベールを回転させるローラ
12	ベルト	ベールを回転させる
13	リフトアームセンサー	リフトアームを適正位置に停止させる
14	サイドローラ	ベールの横ずれ防止
15	グリップカッター	フィルムをつかみ、切断する
16	油圧シリンダ	けん引かんを左右に動かす
17	油圧シリンダ	リフトアームを上下させる
18	安全ガード	ストレッチアーム回転範囲、立入禁止
19	電源コード	バッテリーより電源を取出します
20	予備ヒューズ	コントロールボックス（6 A）、電源コード（30 A）の予備ヒューズ各1ヶ
21	流量調整バルブ	ストレッチアームの回転速度を調整します。
22	タンデム	走行時の機体の揺動を抑える（WM1630AXWのみ）

各部の名称とはたらき（コントロールボックス）



トラクタへの装着

！ 注意

- トラクタへの本機の装着は、平坦で安定した場所で行ってください。
 - ローワーリンクへの装着はリンケージの動きに十分注意し、2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- 以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. ローワーリンクへの装着のしかた

◆ローワーリンクの装着順序

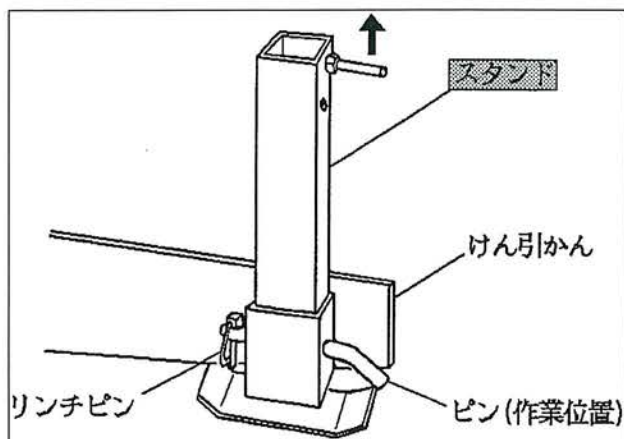
左のローワーリンク、右のローワーリンクの順序で取付けてください。

◆チェックチェーンで横振れ調整

運搬時及び作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心に本機中心が一致するように左右均等に固定してください。

◆スタンドを上げる

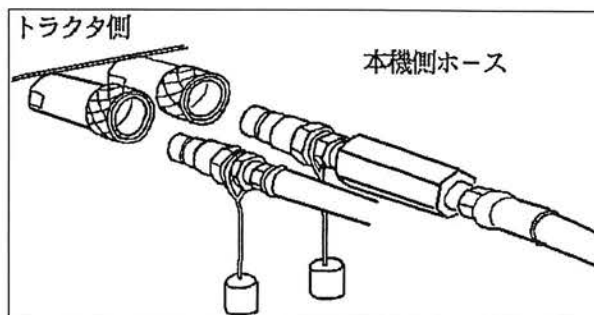
トラクタのローワーリンクを少し上げて、スタンドを持ち上げ作業位置にセットしてください。



2. 油圧ホースの接続

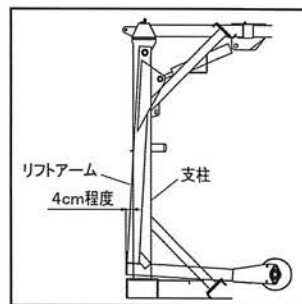
◆接続は残圧を抜いてから

- ①トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧レバーを動かして残圧を抜いてください。
- ②油圧ホース（2本）をトラクタの複動カプラに確実に接続してください。



◆離脱するときは

リフトアームシリンダの残圧を残さないため、リフトアームを下図程度の位置に止めてください。



注意

- カプラ接続時はカプラ部分をきれいに拭き取り、ゴミなどのない状態で確実に接続してください。
- 〔ゴミ及び不確実な接続は、油圧システムのトラブルの元になります。〕
- 油圧ホースをトラクタから外したときは、必ず付属のダストキャップをカプラに差し込み、傷を付けないようにしてください。

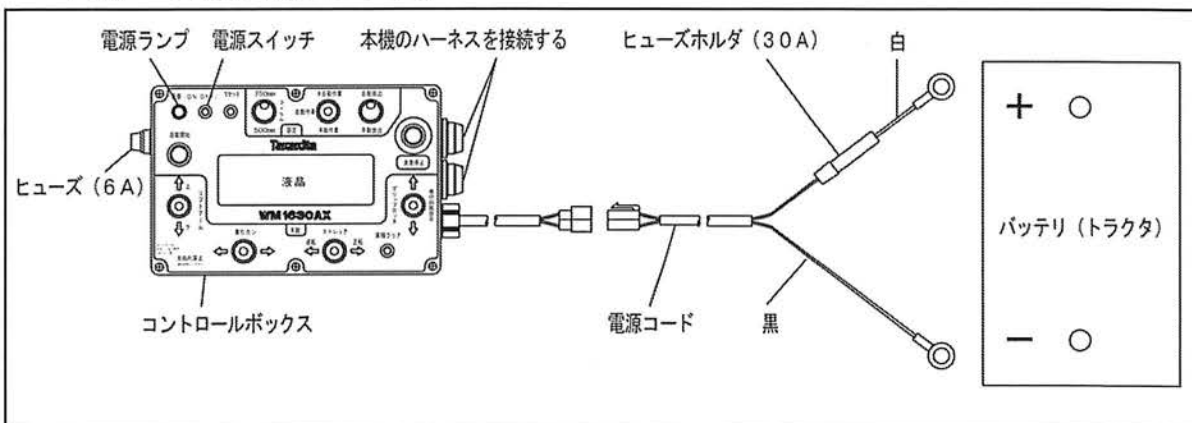
トラクタへの装着

3. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリーから取出します

●接続できるバッテリーの電源は、12Vです。

※24Vのバッテリーに接続しないでください。間違って接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。



●電源コード

- ・白色線はバッテリーの (+) へ接続
- ・黒色線はバッテリーの (-) へ接続

注意

(+)、(-) の接続を間違えると、コントロールボックスの電源が入りません。
(電源ランプが点灯しません。)

！ 注意

- 接続の順序は (+) 側から行ってください。
- 取外すときは (-) 側から行ってください。
- 逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取付け

裏側に永久磁石がついています。操作しやすい位置に吸着してください。

◆配線の接続

電源コードのハーネスをコントロールボックスに接続してください。

◆電源ONの確認

電源をONにするときは、電源スイッチを押して電源をONにします。電源ランプが点灯するのを確認してください。
電源をONからOFFにするときは、再度電源スイッチを押して電源OFFと

なります。電源ランプが消灯するのを確認してください。

電源が入らないときは、コントロールボックス内のヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの (+) と (-) が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

長期間使用すると電源コードのヒューズ部分が腐食して電源が流れない場合があります。

グリスの塗布をお勧めします。

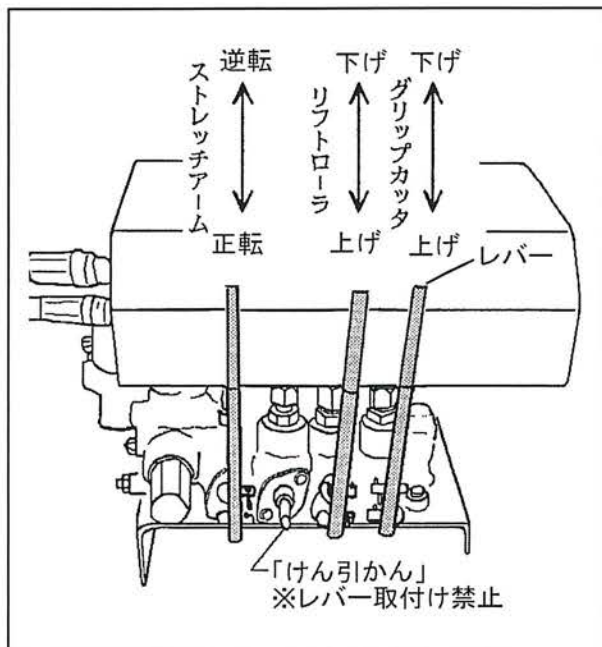
運転に必要な装置の取扱い

1. コントロールバルブの取扱い

本機装着のバルブは、4連電磁バルブです。

◆バルブレバーを操作するときは

運転者がトラクタの運転席より離れて、本機の近くで「段取り作業」や最後の仕上げ作業を行うときのみとし、それ以外はコントロールボックスで操作してください。



注意

レバー操作するときは、コントロールボックスの電源を切った状態で行ってください。

警告

- コントロールバルブのレバー操作は、本機の安全装置が働きません。
- レバー操作するときは、ストレッチアームの回転・リフトローラ・グリップカッタの動きに十分注意してください。

2. コントロールボックスの取扱い

◆ベールの積込みから放出まで

手元でベールの積込み、ラッピング、フィルム切断、ラッピング後のベールの放出まで行います。

- 作業中は必ず、自動作業の位置にして、数字が上がり、設定値で終了するのを確認してください。

※作業中コントロールボックスに、水やほこりがかからないようにしてください。

- コントロールボックスの詳しい内容については、「各部の名称をはたらき」を参照してください。(11 ページ)

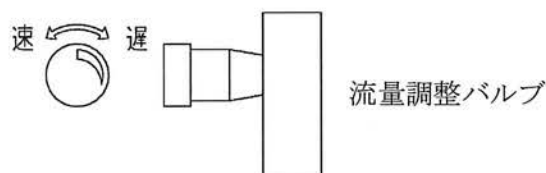
◆作業終了後は、取外して屋内保管

作業終了後は、電源コード側のコネクタより切り離し、水やほこりなどがかからない屋内に保管してください。

3. ストレッチアームの速度調整

作業前に空回しでストレッチアームを回転させ、回転速度が 40min^{-1} 以下になるようにトラクタの流量を調整して下さい。

- ◆トラクタで流量調整ができないときは本機に取り付けている流量調整バルブにて調整を行ってください。



- 流量調整バルブの場所については「各部の名称をはたらき」を参照してください。(11 ページ)

注意

トラクタで調整できる場合は本機の調整バルブは全開にしてください。
油温が上昇しやすくなります。

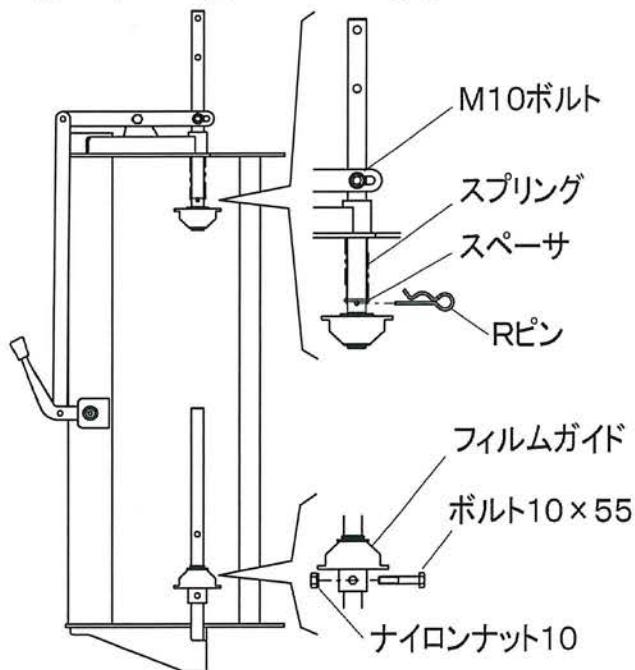
運転に必要な装置の取扱い

4. フィルムサイズ変更時の組替え

使用するフィルムサイズを変更する場合は部品を組替える必要があります。

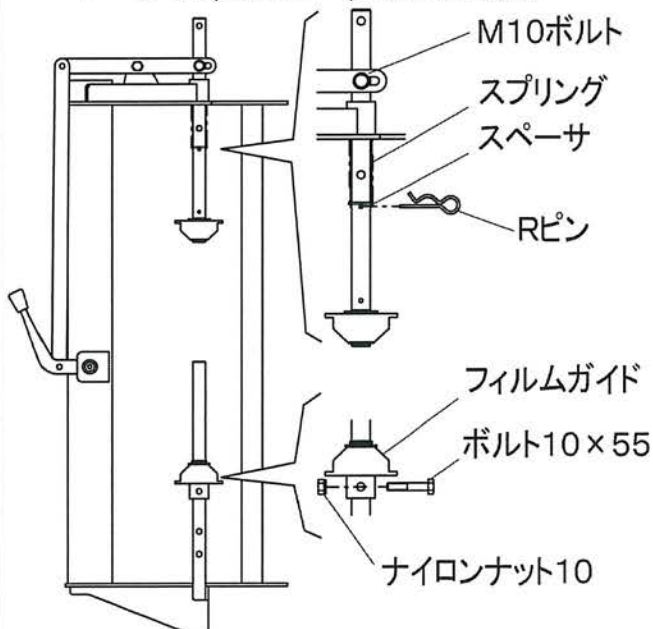
◆フィルムガイドの高さ変更

①フィルム幅 750mmの場合



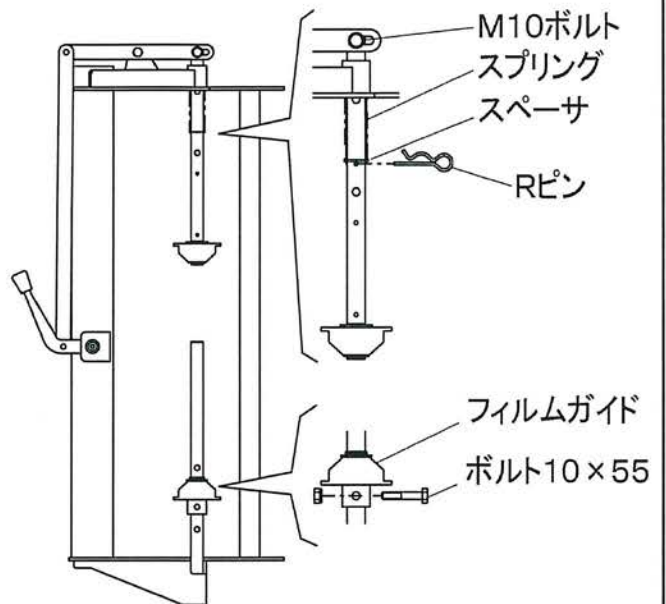
②フィルム幅 500mm

ロール径 $\phi 1300 \sim \phi 1600$ の場合



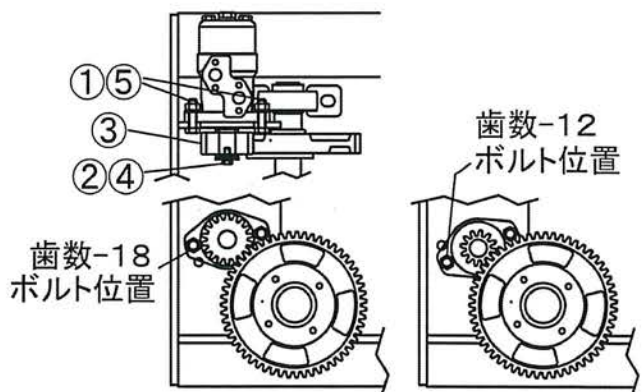
③フィルム幅 500mm

ロール径 $\phi 1200 \sim \phi 1300$ の場合



図①②③に示すようにフィルムサイズ、ロール径に応じた位置に部品を組み替えて下さい。

◆テーブルの速度変更



使用するフィルムサイズに応じてギア及びモーター取り付け位置を組み替えて下さい。

- ①モーターを固定しているボルトを外します。
- ②モーター軸端のボルトとザガネを外します。
- ③ギアを交換します。
 - ・750mmフィルムの場合－歯数 18
 - ・500mmフィルムの場合－歯数 12
- ④モーター軸端のボルトとザガネを組付けます。
- ⑤図の位置にモーターをボルトで固定します。

運転に必要な装置の取扱い

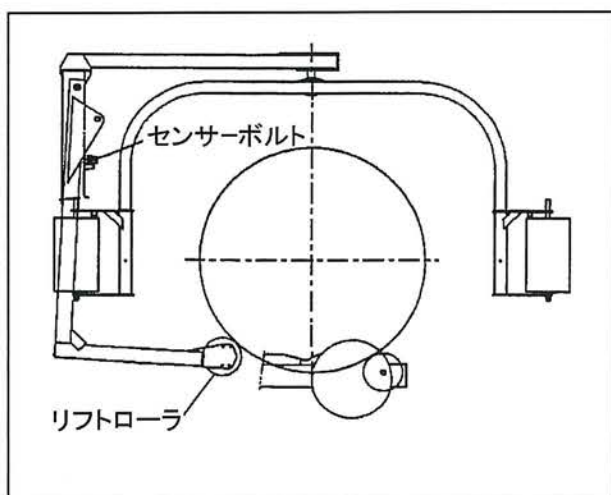
5. リフトローラ停止位置の調整

工場出荷時は、ベール径φ1500にセットしてあります。

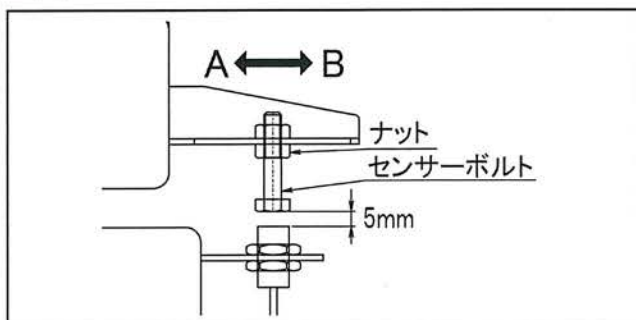
φ1500以外のベールをラップするときは、リフトローラの自動停止位置を調整してください。

◆センサーボルトの位置調整

リフトローラが自動停止したとき、ベールの中心がストレッチアームの中心と一致するように、センサーボルトの位置を調整します。



◆調整のしかた



●ナットをゆるめてセンサーボルトをずらしてください。

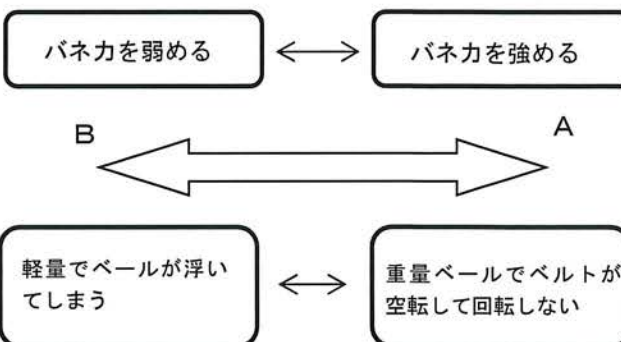
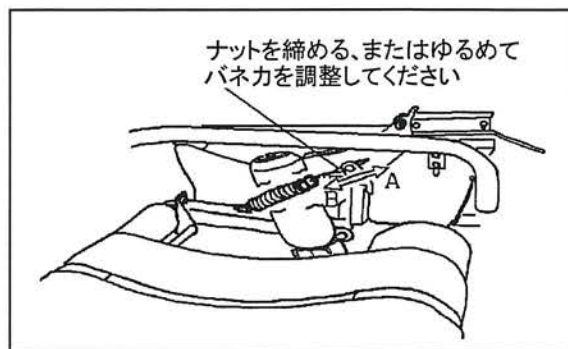


注意

位置が合っていないとストレッチブラケットがベールに当たる恐れがあります。

6. テーブル前ローラのバネ調整

ベールの重量に応じて、バネ力を調整してください。

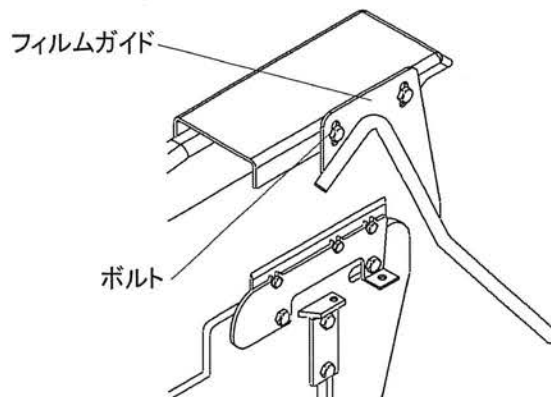


●通常は標準出荷位置で作業できます。

7. フィルム切断具合の調整

グリップカッタによるフィルム切断具合が良くないとき、次の調整をしてください。

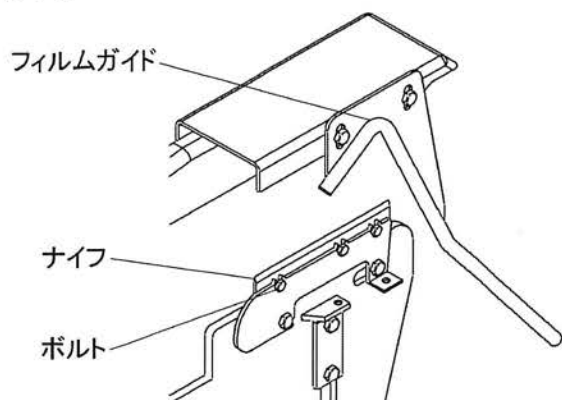
・フィルムを挟む前に切れて抜けてしまうときは、グリップカッタのフィルムオサエを上げてください。



フィルムオサエを上げるほど切れるタイミングが遅くなって抜けにくくなります。

運転に必要な装置の取扱い

フィルムの切れが悪く放出時にフィルムを引張ってしまうときは、フィルムオサエは最も下げ、またナイフを長穴分上げてください。

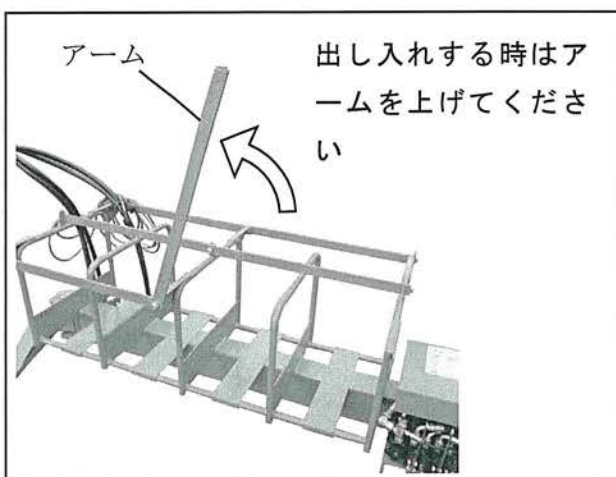


⚠ 注意

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋などの保護具を装着してください。

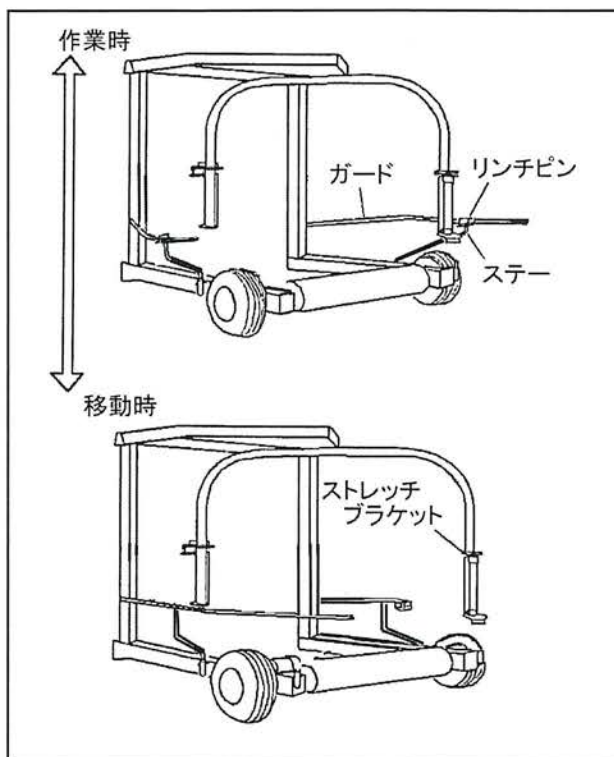
8. フィルム格納のしかた

フィルムは箱のまま、けん引かん上部のフィルムボックスに入れてください。
(8箱入れることが可能です)



9. 安全ガードの取扱い

作業時は広げ、移動時はたたんでください。



※ガードをたたむときは、図のようにストレッチブラケットを必ず前後の位置にしてから行ってください。

◆ガードの広げ方・たたみ方

●リンチピンを外し、ステーを回転させその部分にガードを再度リンチピンで止めて変更してください。

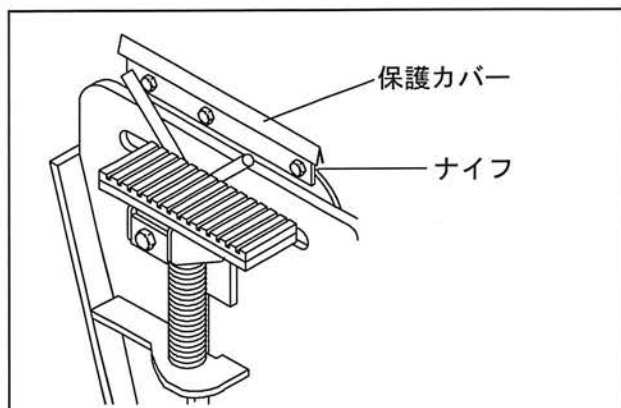
⚠ 警告

取扱いは、トラクタのエンジンを止めて行ってください。

運転に必要な装置の取扱い

10. グリップカッタ・ナイフ保護カバーの取外し

工場出荷時はナイフには危険防止のため、刃物部に保護カバーがついています。使用前に取外してください。

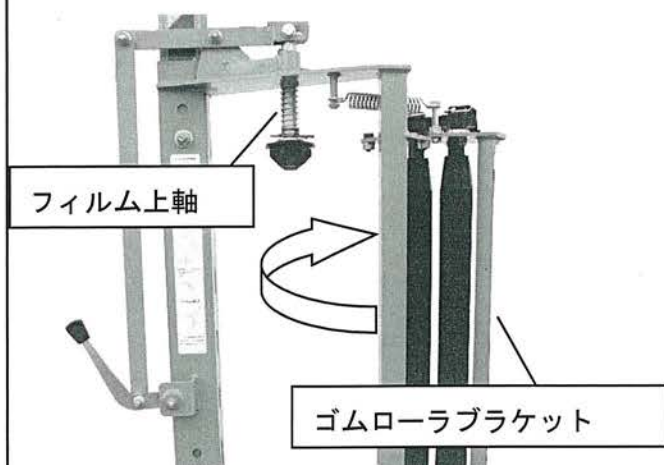


⚠ 注意

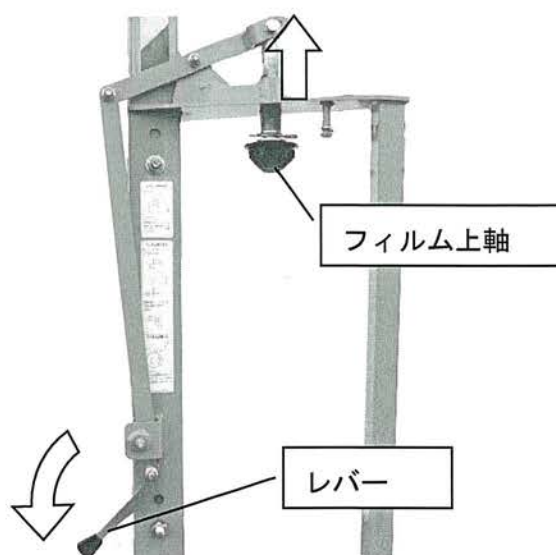
ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋などの保護具を装着してください。

11. フィルムをセットする

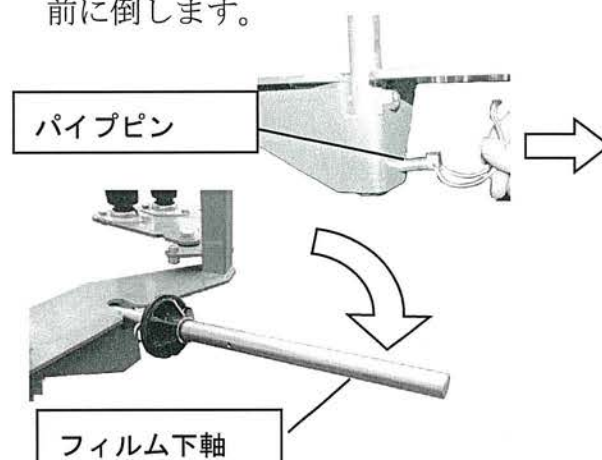
(1) ゴムローラブラケットをフィルム軸と逆方向に支点越えするまで押します。



(2) レバーを下げ、フィルム上軸を上げた状態で保持します。



(3) パイプピンを外してフィルム下軸を手前に倒します。



(4) フィルム下軸にフィルムを差し込みます。

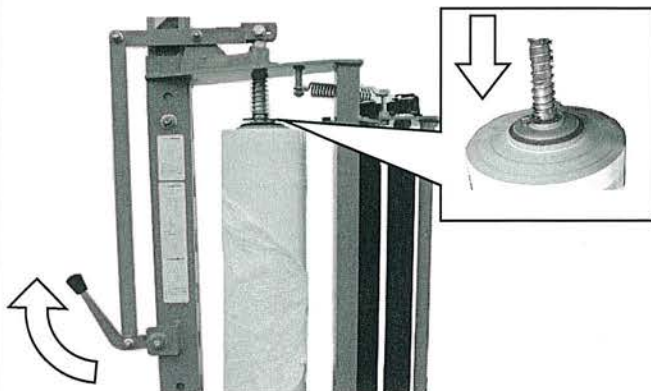
(a) フィルムの表面の糊が強い、または表面と裏面の糊が同等の強さの場合。



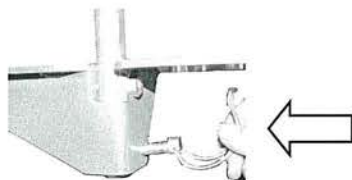
(b) フィルムの裏面の糊が強い場合は上写真と逆の巻き方向で差し込んでください。

運転に必要な装置の取扱い

- (5) フィルムを起し、レバーを上げてフィルム上軸をフィルムの筒に合わせて下げます。

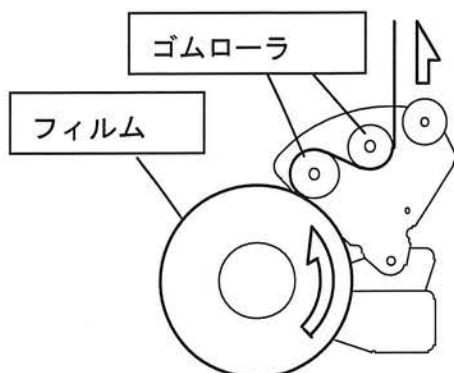


- (6) パイプピンを組付けます。

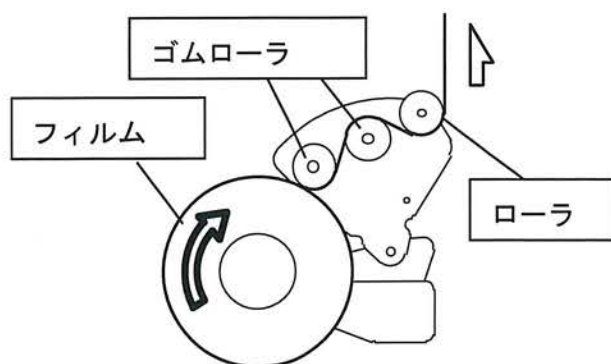


- (7) フィルムをゴムローラに通します。

(4) - (a) の場合



(4) - (b) の場合



図のようにフィルムをゴムローラに通してください。(上から見た状態です)

注意

- フィルムの取扱いには十分注意してください。
- 特に端部に傷がつくと、ラッピング中に切断します。
- フィルムの糊面と異なる通し方をした場合、強い糊面がロール表面になるため運搬時にフィルムを破るおそれがあります。

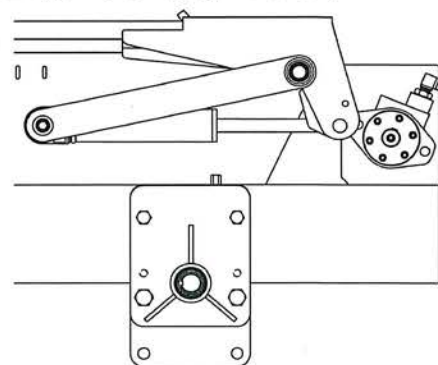
警告

フィルムを本機にセットするときは、必ずトラクタのエンジンを停止してから行ってください。

12. タイヤの取付け位置

(1) シングルの場合

下フレームタイヤ取付け部分の上側の穴に装着します。



(2) タンデムの場合

下フレームタイヤ取付け部分の下側の穴に装着します。

